

2009年9月7日  
亀田貴雄

地球惑星科学連合大会での極地雪氷関連のセッションについて

1. これまでの経緯

1) アイスコア関連

年	セッション名 (提案母体学会)	○コンビナー, サブコンビナー
2002年～2005年	コア研究が拓く地球環境変動史 (雪氷学会)	○西尾文彦 (千葉大学)
2006年～	同上	○亀田貴雄 (北見工業大学), 竹内 望 (千葉大学), 池原実 (高知大学海洋コア総合研究センター)

2) アイスコア以外

年	セッション名	コンビナー, サブコンビナー
2006年～2007年	雪氷学 (雪氷学会)	○鈴木啓助 (信州大学)
2008年～	同上	○西村浩一 (名古屋大学)

2. 2009年度の新しい状況

- ・三浦氏 (極地研) の尽力により, 古気候関連のレギュラーセッションが同一会場での連続開催となった。これにより, 「コア研究が拓く地球環境変動史」は他の海洋底コア関連や第四紀学のセッションと同一会場での連続開催となった。従来, 「コア研究が拓く地球環境変動史」のセッションでは雪氷コア研究だけではなく, 海洋底コアや年輪の研究も発表してもらい, このセッションでは「コア研究全般」の発表を行ないたいという考え方があったが, この必然性が低下してきている。

コア研究が拓く地球環境変動史のセッションの趣旨 (2009年版)

極地や山岳域で採取した雪氷コア研究の進展により、数十年から数十万年の時間スケールにおける種々の地球環境変動が復元されてきた。本セッションでは、極域や山岳域で採取された雪氷コア解析の成果を中心として、近い時間スケールや地域性を持つ湖底コアや海底コア、年輪、気候データ、モデル計算による成果なども合わせて議論し、多くのコアから得られてきた地球環境変動史を総合的に議論する。

3. 来年度以降の提案

- ・第1案 「氷床・氷河コア」に名前を変える。提案母体は雪氷学会のままとする。  
対象は、氷床コア解析と氷河コア解析およびその解釈に関わるプロセス研究
- ・第2案 「極地雪氷 or 極域雪氷 or 氷河・氷床」に名前を変える。提案母体は雪氷学会のままとする。対象は、極域の雪氷全般。「氷河・氷床」の場合、海氷は入らないが、それ以外のセッション名では海氷も入る。  
\*この場合、極地雪氷分科会の役員がセッションコンビナーを兼ねる事を検討する。
- ・第3案 海洋底コアや第四紀のセッションと融合。地球環境・気候変動学のセッションの一部として、再出発。この場合は、この「融合セッション」の提案母体は雪氷学会だけではなく、他の分野との共同提案となる。

案	セッション名	発表分野	メリット	デメリット
第1案	氷床・氷河コア	極域の氷床および高山域の氷河で採取されたコアの結果、解釈および積雪堆積過程などの氷床・氷河コアの解釈に関わるプロセス研究	2009年度に試行した「海洋底コアと氷床・氷河コア、第四紀学の同一会場での連続開催」の場合、都合が良い。	
第2案	極地雪氷 or 極域雪氷 or 氷河・氷床	極域の氷床および高山域の氷河での雪氷学分野の研究	「極地雪氷分科会が実施するセッション」という位置づけができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2009年度に試行した「海洋底コアと氷床・氷河コア、第四紀学の同一会場での連続開催」の場合、コア研究とは異なる発表が含まれてしまう。ただし、これはそれほど多くはない？</li> <li>・雪氷学のセッションとの関係</li> </ul>
第3案	海洋底および氷床コア研究？ (海洋底コアと氷床・氷河コアの融合セッション)	海洋底コアと氷床・氷河コアとの融合セッション。	海洋底コア研究分野と氷床・氷河コア研究分野との連携？	実際は、年代・地域でコア研究を細分するので、海洋底コアと氷床・氷河コアとは分かれて発表になるものが大多数であると思う。同じセッションで行う意味は薄い？